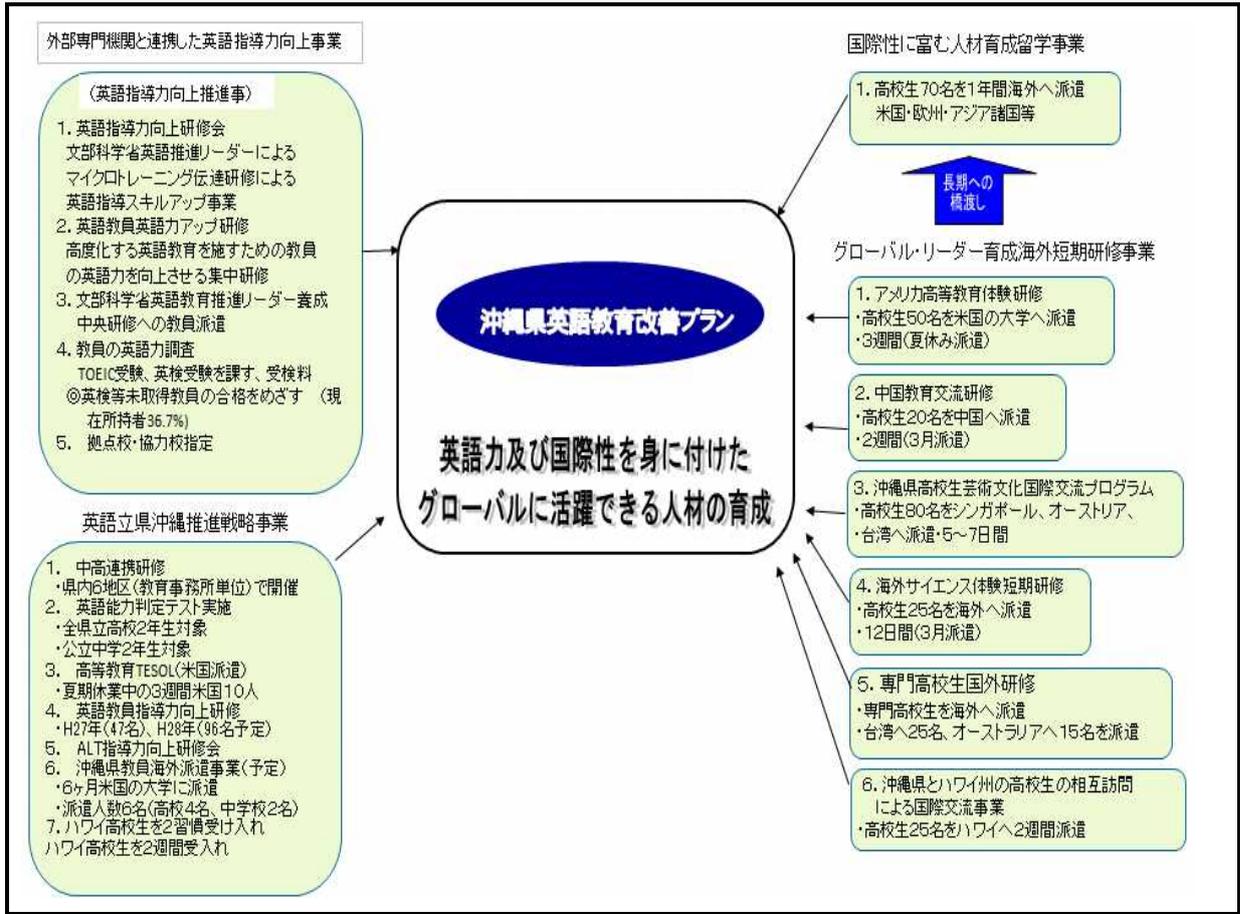


(様式3-2)

沖縄県英語教育改善プラン

実施内容

(1) 研修体制の概要



(2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

1 平成30年度(2018)の取組について

(1) 【小学校】

①相応の英語力を有する英語担当教員の割合を設定していない。

②小学校教員に対する研修実施回数 18回

[平成30年度(2018)の状況・課題]

校種	No.	指標内容	2018		
			2017 達成値	目標値	達成値
小学校	①	学習到達目標の整備状況			
		設定(%)			
		公表(%)			
		達成状況の把握(%)			
	②	小学校教員に対する研修実施回数	17回	18回	18回
	③	研修受講者数	343	350	416

相応の英語力を有する英語担当教員の割合は設定しないが、「教員英語力アップ研修会」にて、授業を行うために必要な教室英語やALTとやり取りをする場合に必要な表現などの実践的ワークショップで、英語によるコミュニケーションの基礎となる力の向上を図っている。

小学校教員に対する研修実施回数は18回で、「英語指導力向上研修会」、「教員英語力アップ研修会」、「小学校英語学習指導要領説明会」等を各教育事務所にて実施している。

(2) 【中学校】

中学校においては、主体的に英語でコミュニケーションを図ることのできる生徒を育成するために、教員の指導力と英語力を向上させる教員研修を実施し、授業改善をすることで、次の各目標を設定してきた。目標管理の結果は次の通りである。

校種	No.	指標内容	2017		2018	
			達成値	目標値	達成値	目標値
中学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	45.0%	50.0%	51.5%	50.0%
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	31.7%	40.0%	37.3%	40.0%
	③	学習到達目標の整備状況 設定(%)	98.0%	98.0%	92.5%	98.0%
		公表(%)	10.9%	70.0%	16.30%	70.0%
		達成状況の把握(%)	51.7%	98.0%	49.0%	98.0%
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	76.5%	80.0%	69.3%	80.0%
	⑤	パフォーマンステストの実施状況 スピーキングテスト(回)	2.8回	3回	3回	3回
		ライティングテスト(回)	1.9回	2回	2回	2回
	⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	77.4%	73.0%	78.7%	73.0%
	⑦	英語担当教員に対する研修実施回数	20回	18回	18回	18回
	研修受講者数	444	450	450	450	

①求められる英語力を有する英語担当教員の割合

[目標達成のための手立て]

[平成 29 年度(2017)] 目標値 50.0% 達成値 45.0%

- ・H29(2017)年度から国の「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」の委託を受けることにより、外部専門機関である TOEIC テストを課した。結果は、昨年度より、8.3pt 上昇し、目標の 50.0%にあと 5pt というところまで近づき、教員の資格取得率を高めた。

「教員英語力アップ研修会 3 日間」「TOEIC 団体テスト」の実施で、英語教員に英語のブラッシュ・アップが図られると同時に、引き続き個人でも英語力を磨く意欲を喚起することができた結果であると考えられる。

[平成 30 年度(2018)] 目標値 50.0% 達成度 51.5%

- ・平成 29 年度(2017)から引き続き、「教員英語力アップ研修会 2 日間」「TOEIC 団体テスト」の実施で、目標値を上回ることができた。引き続き英語教員の英語指導力向上及び英語力向上が図られると同時に、引き続き個人でも英語力を磨く意欲を喚起するよう大学教授等を研修会の講師として招聘し、研修会の更なる充実を努める。

②求められる英語力を有する生徒の割合

[目標達成のための手立て]

[平成 29 年度(2017)] 目標値 40.0% 達成値 31.7%

- ・前年度よりわずかに 1.6pt 上昇したが、目標値には 8.3pt 及ばなかった。英語による対話的言語活動や表現する機会を充実する授業改善に引き続き取り組み、外部試験も利用しながら、生徒の英語力向上を図った。

[平成 30 年度(2018)] 目標値 40.0% 達成値 37.3%

- ・前年度より 5.6pt と飛躍的に上昇したが、目標値には 2.3pt 及ばなかった。「英語指導力向上研修会」で小学校中核教員と中学校英語教諭の指導力の向上することにより、言語活動の工夫で、生徒の英語使用量を増やし、英語で話すこと、書くことの表現の向上を図った。
- ・【課題】授業における言語活動の時間の設定がまだ不十分であると考えられる。
- ・(対策) 県で作成している「問いが生まれるサポートガイド」の活用促進や、学校訪問等の支援や取組により、英語による対話的言語活動や表現する機会を充実する授業改善に引き続き取り組み、外部試験も利用しながら、生徒の英語力を高めていきたい。

③学習到達度の整備状況

[目標達成のための手立て]

「CAN-DO リスト」形式での設定状況

[平成 29 年度(2017)]

設定状況 目標値 98.0% 達成値 98.0%

公表 目標値 70.0% 達成値 10.9%

達成把握 目標値 98.0% 達成値 51.7%

- ・【課題】設定状況は目標値に達したが、リストの公表については、ほとんどの学校がどの

ように公表してよいか方法が分からない状態であった。

- ・（対応策）①公表の方法について、引き続き周知を促していく。
②リストの達成状況の把握についても、学年は把握し、次学年へ引き継ぐことをアドバイスしていく。

[平成 30 年度(2018)]

設定状況	目標値	98.0%	達成値	92.5%
公表	目標値	70.0%	達成値	16.3%
達成把握	目標値	98.0%	達成値	49.0%

- ・【課題】公表の達成は前年度より 5.4pt 上昇しが、設定状況値と達成把握も若干下降している。これは、教科内での引き継ぎが弱かったと考察する。
- ・（対応策）研修会等を通して、確実な作成と公表・把握を具体的に支援していきたい。

④生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

[目標達成のための手立て]

[平成 29 年度(2017)] 目標値 70.0% 達成値 76.5%

- ・授業改善が進み、言語活動によく取り組み、授業改善を行っていることがうかがえる。この取り組みを継続しながら、コミュニケーションを円滑に図るための、基礎的基本的事項と繋げながら学力の定着を図った。

[平成 30 年度(2018)] 目標値 80.0% 達成値 69.3%

- ・【課題】前年度より、7.2pt 下降している。これは、言語活動を単なる「話すこと」の活動のみと捉えている教師が多いことが原因と考えられる。
- ・（対応策）県の事業や研修会等を通して、各技能の活動全てが言語活動に繋がるよう授業改善を図っていく。

⑤パフォーマンステストの実施状況

[目標達成のための手立て]

[平成 29 年度]

スピーキング	目標回数	3.0 回	達成回数	2.8 回
ライティング	目標回数	2.0 回	達成回数	1.9 回

- ・目標回数を達成しつつあり、各学校で、パフォーマンステストが定着してきていると思われる。

[平成 30 年度(2018)]

スピーキング	目標回数	3.0 回	達成回数	3.0 回
ライティング	目標回数	2.0 回	達成回数	2.0 回

- ・目標回数を達成しており、各学校でパフォーマンステストが定着してきていると思われる。

⑥英語担当教員の授業における英語使用状況

[平成 29 年度(2017)] 平成 29 年度(2017) 目標値 73.0% 達成値 77.4%

- ・目標値を超え、英語で教えるということが意識付けられてきていると言える。

[平成 30 年度(2018)の進捗状況・課題] 平成 30 年度(2018) 目標値 75.0% 達成値 78.7%

- ・目標値を超え、英語で教えるということが確実に意識づけられている。

⑦英語担当教員に対する研修実施回数

[目標達成のための手立て]

[平成 29 年度(2017)] 目標回数 18 回 達成回数 18 回

昨年度と同様回数を実施、適度な研修の回数が確保されている。また、研修受講者数が昨年度 316 人から 444 人に増加した。

[平成 30 年度(2018)] 目標回数 18 回 達成回数 18 回

平成 30 年度(2018)も平成 29 年度(2017)と同様回数を実施、目標の 450 人が受講をし、目標

値を達成している。

3 平成 30 年度(2018)の取組み

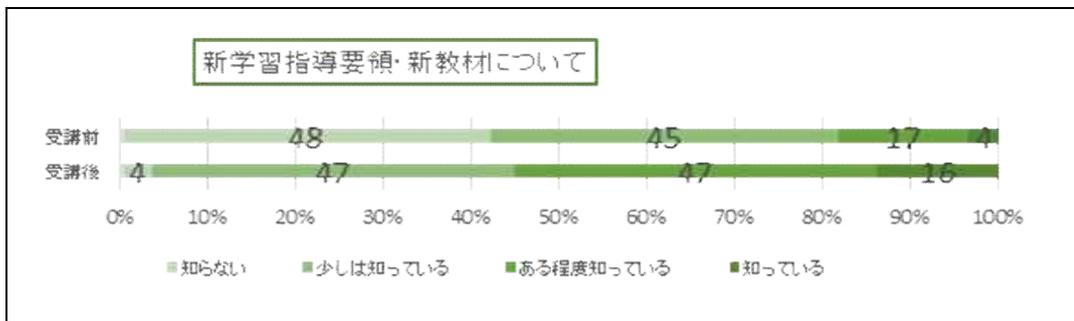
(1) 【小学校・中学校】

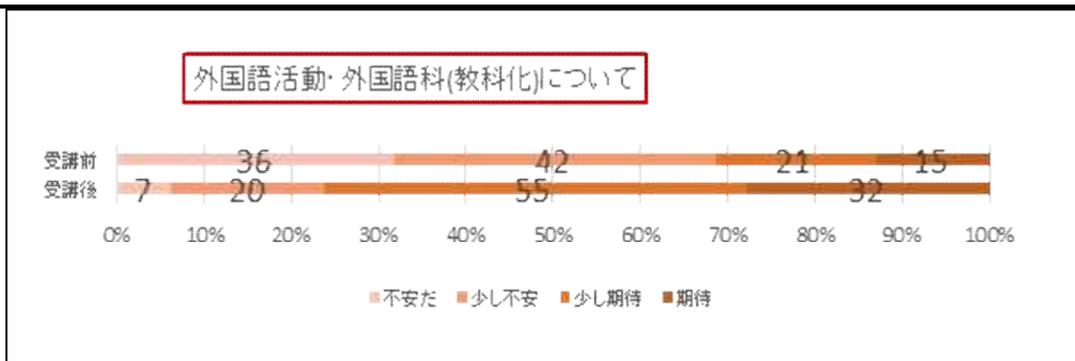
平成 29 年度(2017)の課題と成果を踏まえ、平成 30 年度(2018)は以下の研修会や取組みを推進した。

- ① 英語指導力向上研修会（小・中学校教諭 役 360 名）
文部科学省英語教育推進リーダーによるマイクロトレーニング伝達研修により、英語担当教諭・英語教師の指導技術のスキル・アップを図った。
- ② 英語教員英語力アップ研修会（小・中学校教諭 360 名程度）
高度化する英語教育を実践するために必要な教員の英語力の向上をめざした集中講座である。この研修において、準一級を取得していない教員を主な対象にし、大学の教授による英語教育の理論研とワークショップ等の集中講座を実施し、資格取得率を高める取り組みを行った。
- ③ 小学校英語新学習指導要領説明会（小学校教諭 266 名）
小学校教諭を対象とした、新学習指導要領の説明やワークショップを各地区で行った。いくつかの地区で英語教育推進リーダーが、公開授業や講師などを務めた。
- ④ 文部科学省英語教育推進リーダー養成中央研修への派遣（県費）
平成 30 年度(2018)は、小学校 6 人、中学校 4 人の教諭を中央研修へ派遣した。
- ⑤ 外部英語検定試験等（TOEIC、英語検定、GTEC 等）の受検料をサポートし、求められる英語力を有する英語担当教員の増加を目指した。結果、求められる英語力を有する教員の数値が向上した。
- ⑥ 研修協力校公開授業【大山小】〈9 / 21〉（県内全地区の小・中学校教諭 約 100 名）
小学校—英語推進リーダーによる実践的指導力の向上（英語教育強化加配 1 名）
宜野湾市立大山小学校で、小中接続を見据えた公開授業を行い、琉球大学から教授を招聘し、指導助言を得た。
- ⑦ ALT 及び英語教諭市内研修会（宜野湾市内の ALT 及び英語教諭 約 50 名）
中学校—市内に勤務する ALT と英語教諭を対象に、言語活動の研修会を行い、効果的な T.T. のあり方や指導力向上と授業改善に繋げた。

(2) 【研修協力校 大山小学校】

[成果]





- 模擬授業などを通して新教材の指導内容などの具体的なイメージを与えることができ、教員の不安を期待へ変えることができた。(不安感の解消)
- 新学習指導要領・新教材の内容について「ある程度知っている」「知っている」が11%から63%へ増えている。それに伴い、不安感78%から27%へ減っている。
- 教科化に関する具体的なイメージを提示することで「期待」をいただく教員が87%に増えた。
- 移行期間の年間計画ワークショップにより、教員が年間計画を作成することができた。(負担感の解消)
- 外国語活動の授業へのアドバイスや単元計画の作成指導、授業参観・介入授業などで、教員がゴールを意識しスモールステップで授業をする意識が出てきた。
- 『HRTのCan-DoリストHop Step Jump』を示すことで、教員の意識改革が図られ、担任主導の授業が増えてきた。
- 「手書き打ち合わせメモ単元計画」を活用することで短時間でのALTとの打ち合わせが可能になり、担任とALTの連携が取れるようになった。
- 新学習指導要領・新教材の内容について「ある程度知っている」「知っている」が11%から63%へ増えている。それに伴い、不安感78%から27%へ減っている。

[課題]

- 新教材『We Can①②』を活用し5・6年生での教科化を見据えた授業づくりと授業実践
- 新教材『Let's Try①②』を活用し3・4年生への導入を意識した授業づくりと授業実践
- 小中連携を意識した効果的な指導と評価の在り方
- 「主体的に学習に取り組む態度」の評価基準と評価の在り方の研究

(3) 【研修協力校 真志喜中学校】

[成果]

- 英検を実施し、188名中56名が3級以上の資格を取得した。
- 口頭での応答について、間違いを恐れる生徒が減ってきた。
- パターンの会話の返答から、文の仕組みを理解し、多様な応答力ができる生徒が増えた。
- メモ程度の情報から文で応答できる、書ける生徒が若干名でできた。
- パフォーマンステスト(評価)のスピーキングテストにおいて、多少のミスは言い直しができる点がペーパーテストとは違い、英語を話す動機づけになることがわかった。
- 管内英語科や、市内近隣のALT、JTEを対象にした授業実践を行い、英語科教諭だけでなく、ALTにも方向性を示すことができた。

[課題]

- パフォーマンスを充実させようとする、評価に時間がかかりすぎてしまう点の解消
- 小学校との連携(CAN-DOリストのつながり)
- 本年度は、大きな公開授業が難しかった。

(4) 【高等学校】

高等学校においては、目標値を設けているほとんどの項目を下回っているが、全体的に改善傾向にある。9割近い高校でパフォーマンステストを実施しているが、実施回数が前年度を下回っている科目もあり、更なる授業改善と評価方法の工夫が必要で次の方策を考えている。

「求められる英語力を有する生徒の割合」に関しては、前年度と比較すると増となっており、英語能力判定テスト（IBA）の受験者増による効果があったと考える。平成31年度(2019)は平成30年度(2018)同様、全日制・定時制の全2年生を対象に実施する予定である。

①求められる英語力を有する英語担当教員の割合

目標値 78.0%に対して 77.4%と若干下回ってはいるが、ほぼ目標値は達成しており、長期休業中に実施している英語担当教員の英語力向上研修会の成果が見られる。

②求められる英語力を有する生徒の割合

目標値 52.0%に対して 46.3%と下回っているが、対前年度比較では「英検準2級以上を取得している割合 18.1%(+1.3ポイント)、英検準2級以上相当の英語力を有すると思われる割合 28.2%(+0.8ポイント)」となっており、改善が見られる。しかし、次年度の目標値 54%達成に向けて、引き続き各研修会において CEFR の基準が計れるパフォーマンステスト及び評価に関する研修会を充実させ、各学校でパフォーマンステストを実施するよう求める。

③学習到達目標の整備状況

「CAN-DO リスト」の形式での設定状況は、H27年度全高校からの提出があり 100%であった。しかし、公表に関しては 18.6%とかなり低いのが現状である。公表の意義の理解を進め、平成31年度には目標値に近づけるように努める。

④生徒の授業における英語による言語活動時間の割合

現状は目標値 60.0%に対して 55.9%で目標値に近づきつつあるが、中高連携研修会の公開授業等でモデルを示すことにより、平成31年度の目標値 60.0%を達成できるように努める。

⑤パフォーマンステストの実施状況

パフォーマンステストを実施した学校は平成29年度46校から今年度52校と増加しているが、スピーキングもライティングのテストも実施回数が減少している科目がみられる。パフォーマンス評価に特化した研修会を開催し、意義、実施方法について意識を高め、「英語は実技科目」ということを、全英語教員の共通認識の下、全科目で実施できるように支援する。

⑥英語担当教員の授業における英語使用状況

平成29年度47.7%から今年度61.2%と大幅な改善が見られる。平成31年度の夏季休業中の英語教員指導力向上研修が最終年度を迎え、5年間で全英語担当教員が研修を受講する予定となっている。平成31年度には目標値75%達成できるように支援する。

⑦英語担当教員に対する研修実施回数

中高英語担当教員対象の合同研修会は「高校入試分析説明会（7地区）」「中高連携研修会（6地区）」「英語能力判定テストフィードバック説明会（3地区）」「教育講演会」「小中高連携シンポジウム」の5つ、高校英語担当教員対象の研修会は「教育課程説明会（3地区）」「学習評価に関する研修会」「英語教員指導力向上研修会」の3つとなっている。ほとんどの研修が悉皆研修となっており、研修会では県の「英語教育改善プラン」を理解してもらい、各学校で生徒の英語力向上に繋がる内容としている。

5 平成30年度(2018)の成果・課題

(1) 【小学校・中学校】

小中学校においては、平成29年度(2017)より文部科学省「外部専門機関と連携した英語指導

力向上事業」の承認を受け、県としては「英語指導力向上推進事業」という名称で次の5つの研修を実施してきた。

平成30年度で3年目となる、英語教育推進リーダーによるマイクロトレーニング伝達研修による「指導力向上研修会」は、小学校英語担当教員・英語教員が、意欲的に参加し、指導技術のスキル・アップを図ることができている。受講した教員は授業で自信をもって児童・生徒の指導にあたり、授業改善が着実に進んでいる。

授業で必要とされる英語運用力を備えるための「教員英語力アップ研修」においては、小学校教員には自信を与え、中学校英語教員には、求められる英語力を備えるブラッシュ・アップ研修となり、外部試験 TOEIC テストの団体受験も、平成29年度(2017)は25%の受講者が目標点を超えることができ、目標管理の達成値が飛躍的な上昇につながった。平成30年度(2018)は26%の受講生が目標点を超えることができた。

研修協力校における推進リーダーの指導は効果的であった。小学校においては、平成29年度(2017)に引き続き、推進リーダーである加配教員（県では「英語教育強化教員」と称している）が本研究を推進している。所属地区にとどまらず、沖縄県全地区からの90校余りの要請を受け、精力的に学校を回り指導にあたっている。それにより、授業改善は進み、移行措置への対応や、新教材の利用や年間計画についてワークショップをすることで、多くの教員に自信と安心を与えている。

また、小学校英語専科とも積極的に情報交換や、教材研究をおこない、県内の小学校英語教育の牽引役として、活躍している。次年度も、教科のアドバイザーとして、地区内及び県内の小学校の授業や校内研修で講師として助言や指導を行う予定である。

加えて、中学校においては、各研修会における推進リーダーの指導技術の波及により、管内英語科やALTに、授業でのインターアクティブなスピーキング活動で授業改善が進んでいる。

課題は、依然として中学校3年生の英語力である。小学校での英語教育の素地を生かし、中学校での授業改善を引き続き行い、全県に研修実践の成果を波及させ、中学校3年生で測られる英語教育の成果に反映されるようにしていきたい。

(2) 【高等学校】

英語教育改善プランで設定した目標設定値において、ほとんどの項目において達成することができなかったが、目標値が妥当かどうかも含めて外部有識者の意見も取り入れながら取り組んだ。特に、「生徒の英語力」においては、県立高校全2年生が英検 IBA を受験、県教委主催のパフォーマンスに特化した評価に係るレクチャー・ワークショップ等を通して、各学校での取り組みの成果が見られ昨年度比+2.0ポイントの46.3%となっている。

第3期・4期教育振興基本計画で示されているとおり、生徒の英語力の割合は60%、70%とさらに高い数値目標が設定されているので、継続的に研修等を続け学校現場を支援していく

(3) 研修の体系と内容の具体

1 【平成31年度(2019)年度から2022年度までの手立てについて】

平成30年度(2018)の課題と成果を踏まえ、平成31年度(2019)～2022年度までの目標管理を次のように設定し、以下の取り組みを計画している。

【小学校】 [平成31年度(2019)～2020年度までの目標管理]

校種	№	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
			目標値	達成値(現状)	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	①	学習到達目標の整備状況	設定(%)	80.0%	90.0%	100.0%	80.0%	90.0%	100.0%	80.0%	90.0%	100.0%
			公表(%)	80.0%	90.0%	100.0%	80.0%	90.0%	100.0%			
			達成状況の把握(%)	80.0%	90.0%	100.0%	80.0%	90.0%	100.0%			
	②	小学校教員に対する研修実施回数	18回	18回	24回	24回	24回	24回	24回	24回	24回	
③	研修受講者数	350	416	950	950	950	950	950	950	950		

【中学校】

校種	No	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
			目標値	達成値(現状)	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
中学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50.0%	51.5%	55.0%		60.0%		65.0%		70.0%	
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	40.0%	37.3%	45.0%		50.0%		55.0%		60.0%	
	③	学習到達目標の整備状況	98.0%	92.5%	98.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		設定(%)	70.0%	16.3%	70.0%		90.0%		100.0%		100.0%	
		公表(%)	98.0%	49.0%	60.0%		70.0%		80.0%		90.0%	
		達成状況の把握(%)	80.0%	69.3%	75.0%		75.0%		75.0%		75.0%	
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	3回	3回	3回		3回		3回		3回	
	⑤	パフォーマンステストの実施状況	2回	2回	3回		3回		4回		4回	
		スピーキングテスト(回)	73.0%	78.7%	80.0%		85.0%		88.0%		90.0%	
		ライティングテスト(回)	18回	18回	18回		18回		18回		18回	
	英語担当教員に対する研修実施回数	450	450	450		450		450		450		
	研修受講者数											

2 県としての取組

(1) 【小中学校】

平成31年度の課題と成果を踏まえ次のように研究を推進していく。

「英語指導力向上推進事業」やその他の事業の中で以下の手立てを実施する。

- ①英語教育改善プラン推進事業に係る英語指導力向上研修会（研修指定校：小1校、中2校）

目的：沖縄県が策定した英語教育改善プランに基づき、外部専門機関と連携した効果的な研修を通して、英語教育に関わる者の英語によるコミュニケーション能力及び指導力の向上に資する

内容：研修協力校を指定し（小学校1校、中学校2校）言語活動の充実を図る研究やパフォーマンス評価の在り方や、異校種連携した指導方法の英語教育研究を図る。年に3回の校内研修会を行い、義務教育課担当指導主事、該当教育事務所指導主事が助言を行う。また、公開授業等を行い、大学講師等を招聘し指導助言を授業改善に活かす。

評価方法：英語教育実施状況調査を指標とする。
- ②オンライン・オフライン研修会（対象者：離島に勤務している中学校教諭10人程度）

目的：オンライン・オフライン研修を通して、研修会へ参加が難しい離島勤務の英語教諭の指導力向上及び授業改善を図る。

内容：文科省から委託された業者が作成した研修プログラムをオンラインで受講する。夏休みと冬休みのそれぞれ1日のオフライン研修会を義務教育課指導主事が講師となり本庁で開催する。

評価方法：英語教育実施状況調査と教師や生徒へのアンケート実施
- ③英語指導力向上研修会【3日間】（対象者及び人数：小中学校教諭413名）

目的：文部科学省英語教育推進リーダーによるマイクロトレーニング伝達研修により、英語担当教諭・英語教師の指導技術のスキル・アップを図る。

内容：中央研修で学んだカスケード研修会の伝達講習

評価方法：アンケート実施

推進リーダー活用：平成30年度(2018)に受講した英語教育推進リーダー及び過年度の推進リーダーが講師を務める。
- ④中学校英語教員英語力アップ研修会【2日間】（対象者及び人数：中学校教諭147名）

目的：高度化する英語教育を実践するために必要な教員の英語力の向上をめざした集中講座。この研修において、準一級を取得していない教員を主な対象にし、研修会を通して資格取得率を高める取り組みを行う。

内容：大学教授等を講師とした、英語の理論研と実践を学ぶ。また、TOEIC受検を実施し、受講者個人の現在の英語力を把握させ、資格取得への手立てと意欲喚起を図る。

評価方法：英語教育実施状況調査及びTOEIC試験の結果でCEFR B1レベルの点数を

指標とする

外部専門機関：大学の教授にと TOEIC 試験を活用する。

⑤小学校英語スキルアップ研修会【3回】（対象者：小学校教諭 1050 名）

目的：全小学校英語教諭を対象とした 5 年計画の悉皆研修である。全小学校教諭が受講し、新教材の活用法や新学習指導要領の理解と周知を図る。

内容：各地区から 1 回の研修会で約 50 名を受講者とする。英語教育推進リーダーや小学校英語専科教員による公開授業と新学習指導要領の理解を図る。

推進リーダー活用：公開授業の授業者とワークショップ等の講師

⑥中学校英語ブロック型研究会 調査官招聘授業【1日】（対象者：中学校教諭 147 人）

目的：調査官を招聘し、指導助言と講話を通して、英語指導力向上と授業改善を図る

内容：県内 6 地区で公開授業を行い、それぞれに文部科学省教科調査官から指導助言と英語教育についての国と動向や、授業改善の手立てを学ぶ。

評価方法：英語教育実施状況調査及び参加者のアンケート

推進リーダー活用：授業者の指導案検討会や検証授業での助言

⑦学校訪問及び教科訪問【通年】〔沖縄県内小中学校〕

目的：学校として学力向上の取り組みが弱い学校を訪問し、助言を行う

内容：沖縄県学力到達度調査や全国学力・学習状況調査の結果から、英語科として取組が弱いところへ義務教育課や教育事務所担当主事が学校訪問を行い、授業参観と英語科としての取り組みについて助言する

評価方法：沖縄県学力到達度調査及び英語教育実施状況調査

⑧英検 IBA テスト（対象者：中学校 2 年生約 1 万人）

目的：外部テストの結果を通して学校や個人の課題を把握し、教師の授業改善と生徒自身の学習の手立てを図る。

内容：ブロック型研究会に所属している中学校を中心に、所属している中学校 2 年生を対象に受検させ、その結果を大学の教授等に分析してもらい、フィードバックを図る。

評価方法：沖縄県学力到達度調査及び英語教育実施状況調査

⑨小学校教員のための中学校英語免許認定講習（対象者：小学校教諭）

目的：小学校教諭へ中学校英語二種免許の取得を促進し、教科化へ向けての小学校教諭の英語指導力と英語力向上を目指す。

内容：中学校英語二種免許取得のための英語講座

(2) 【高等学校の取組】

高等学校においては、本島・離島を含む全県立 60 校を対象とした研修会を、年 3 回の実施を計画している。また、中高連携を深めるために、教育事務所単位（6 地区）で研修会を次年度も計画している。さらに、パフォーマンステスト・評価が重要視されている昨今の現状を踏まえ、県外大学より講師を招へいし、全県立 60 校対象の悉皆研修も予定している。

①高校入試分析会を 7 地区に分け、全ての公立中学校、県立高校より英語担当教員 1 名が参加する研修会を実施し、3 技能（読む、聴く、書く）の向上に繋がる高校入試のありかたについて協議し、各学校での授業改善に取り組む。

②県立高校英語科教員対象の教育課程研修会を 2 地区に分け実施する。国の動向や、本県の生徒、教員の英語力の状況、留学事業等の行政説明後、グループ討議ではテーマを設定し各グループで話し合い、それぞれのグループでの協議内容を全体で発表しシェアし、授業力向上に努めている。

③平成 25 年度より、カリフォルニア大学サンディエゴ校より當作靖彦氏を招聘し、学習評価

に特化した講演会、レクチャー、ワークショップを開催している。参加者からも好評を得ており、平成 31 年度も高等学校の外国語担当教員を対象とした研修会を計画中である。

今年度は、台風等の影響を受けることなく全研修を予定通り実施することができた。全ての研修会において、現在の英語教育の全国的な流れ、改革の方向性、高大接続における大学入試英語の 4 技能テスト（外部検定試験の導入）等を繰り返し何度も説明し、英語担当教員の意識の向上に努めていく。「英語は実技教科」という共通意識の元、パフォーマンステストの実施・評価に重きを置きながら、研修会や学校訪問を実施していく。

(4) 年間事業計画

月	都道府県等の取組	外部専門機関等
4 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校授業改善アドバイザー研修会（5 教科） ・ 研修協力校校内研修会①（於：佐敷小・佐敷中） ・ 研修協力校校内研修会①（於：金武中） 	
5 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語能力判定テスト（高校 14,400 名、中学校 160 名対象）実施 ・ 中学校教科ブロック研修会（5 教科） ・ 研修協力校校内研修会②（於：佐敷小・佐敷中） ・ 研修協力校校内研修会②（於：金武中） 	日本英語検定協会 British Council
6 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校入試分析研修会（全 7 地区）（中学校・高校） ・ ALT コーディネーター研修会 ・ 英語教育推進リーダー研修実習（小学校）③ 2 地区 ・ 高校入試分析研修会（全 7 地区）（中学校・高校） 	
7 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語授業マイスター発掘プロジェクト（小・中・高） ・ 研修協力校校内研②（佐敷小学校） ・ 英語授業マイスター発掘プロジェクト（小・中・高） ・ 英語教育推進リーダー研修実習（小学校）6 地区 ・ 英語教育推進リーダー研修実習（中学校）6 地区 ・ 教員英語力アップ研修（中学校）6 地区 ・ 中学校教員 TOEIC テストの実施① ・ 研究協力校校内研修会③（於：佐敷小・佐敷中） ・ 研究協力校校内研修会③（於：金武中） ・ 琉球大学「小学校教員のための中学校英語免許」免許法認定講習（長期休暇中に実施） 	県内大学教授 TOEIC 国際ビジネスコミュニケーション協会
8 月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 英語教員指導力向上研修（高校） ・ 教育課程（外国語）研修会（全 3 地区）（高校） ・ 英語能力判定テストフィードバック説明会（中学校・高校） ・ 学習評価に関する研修会（悉皆研修）（高校） ・ 英語教員指導力向上研修（高校） ・ 教育課程（外国語）研修会（全 3 地区）（高校） ・ 琉球大学「小学校教員のための中学校英語免許」免許法認定講習（長期休暇中に実施） 	琉球大学 カリフォルニア大学 外部講師 琉球大学

	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校授業改善アドバイザー研修会（5教科） ・研究協力校校内研修会④（於：佐敷小・佐敷中） ・研究協力校校内研修会④（於：金武中） ・オンライン研修会① 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・英語担当中高連携研修会（6地区）（中学校・高校） ・英語教員指導力向上研修（高校） ・英語担当中高連携研修会（6地区）（中学校・高校） ・学習評価に関する研修会（悉皆研修）（高校） ・研究協力校校内研修会④（於：佐敷小・佐敷中） ・研究協力校校内研修会④（於：金武中） 	県内大学 琉球大学
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・協力校授業公開①（金武中学校）【予定】 ・協力校授業公開②（佐敷中学校）【予定】 	県外大学教授
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ALT等の指導力向上研修会 ・協力校授業公開③（佐敷小学校）【予定】 ・ALT等の指導力向上研修会 	県外大学教授
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校ポスト・テスト（真志喜中）の実施 ・中学校教員 TOIEC テストの実施① ・協力校授業公開（真志喜中学校） ・オンライン研修会② 	
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・教育講演会 ・小中高大連携シンポジウム ・教育講演会 ・小中高大連携シンポジウム ・研究協力校推進委員会③（於：大山小） ・文科省全国連絡協議会 ・研究協力校校内研修会⑤（於：佐敷小・佐敷中） ・研究協力校校内研修会⑤（於：金武中） 	県外大学
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校教員 TOIEC テストの実施②【予定】 ・研修協力校校内研⑤研究まとめ（於：佐敷小・佐敷中・金武中） 	TOEIC 国際ビジネスコミュニケーション協会
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・研究のまとめ ・次年度の計画 	
<p>【その他の取組】</p> <p>・「英語でお仕事プロジェクト」県内の外国語と深い関わりのある機関が提供する「県内外で英語を活用する国際的な仕事の紹介」を通して、英語で仕事をすることを幅広く理解し、興味を喚起する。また、キャリア教育の一環として、生徒自らの進路決定に活かす機会とする。</p>		

都道府県等 教育委員会名	沖縄県教育委員会
-----------------	----------

※表中、斜線部は記入不要。計画段階では目標値のみ記入。

校種	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022				
			目標値	達成値(現状)	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値			
高等学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	78.0%	77.4%	80.0%		83.0%		85.0%		90.0%				
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	52.0%	46.3%	54.0%		56.0%		58.0%		60.0%				
	③	学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%			
			公表(%)	30.0%	18.6%	40.0%		50.0%		60.0%		70.0%			
			達成状況の把握(%)	50.0%	47.7%	60.0%		70.0%		80.0%		90.0%			
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	60.0%	55.9%	60.0%		60.0%		60.0%		60.0%				
	⑤	パフォーマンステストの実施状況	○スピーキングテスト(回)												
			コミュニケーション英語Ⅰ	3回	1.8回	3回		3回		3回					
			コミュニケーション英語Ⅱ	3回	1.5回	3回		3回		3回		3回			
			コミュニケーション英語Ⅲ	3回	1.5回	3回		3回		3回		3回			
			英語表現Ⅰ	5回	2.6回	5回		5回		5回					
			英語表現Ⅱ	5回	3.7回	5回		5回		5回		5回			
			○ライティングテスト(回)												
			コミュニケーション英語Ⅰ	5回	1.3回	5回		5回		5回		5回			
			コミュニケーション英語Ⅱ	5回	1.7回	5回		5回		5回		5回			
			コミュニケーション英語Ⅲ	4回	1.6回	4回		4回		4回		4回			
			英語表現Ⅰ	5回	2.0回	5回		5回		5回					
			英語表現Ⅱ	5回	2.9回	5回		5回		5回		5回			
			⑥	○スピーキングテスト(回)	英語コミュニケーションⅠ										3回
					英語コミュニケーションⅡ										
英語コミュニケーションⅢ															
論理・表現Ⅰ												5回			
論理・表現Ⅱ															
論理・表現Ⅲ															
○ライティングテスト(回)												5回			
英語コミュニケーションⅠ															
英語コミュニケーションⅡ															
英語コミュニケーションⅢ												5回			
⑦	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75.0%	61.2%	75.0%		75.0%		75.0%		75.0%					
⑧	英語担当教員に対する研修実施回数	18回	18回	18回		18回		18回		18回					
	研修受講者数	400人	406人	400人		400人		400人		400人					

校種	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022		
			目標値	達成値(現状)	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50.0%	51.5%	55.0%		60.0%		65.0%		70.0%		
	②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	40.0%	37.3%	45.0%		50.0%		55.0%		60.0%		
	③	学習到達目標の整備状況	設定(%)	98.0%	92.5%	98.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
			公表(%)	70.0%	16.3%	50.0%		60.0%		70.0%		80.0%	
			達成状況の把握(%)	98.0%	49.0%	60.0%		70.0%		80.0%		90.0%	
	④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	80.0%	69.3%	75.0%		75.0%		75.0%		75.0%		
	⑤	パフォーマンステストの実施状況	スピーキングテスト(回)	3回	3回	3回		3回		3回		3回	
			ライティングテスト(回)	2回	2回	2回		2回		2回		2回	
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	73.0%	78.7%	80.0%		85.0%		88.0%		90.0%			
⑧	英語担当教員に対する研修実施回数	18回	18回	18回		18回		18回		18回			
	研修受講者数	450	450	450		450		450		450			

校種	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
			目標値	達成値(現状)	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	①	学習到達目標の整備状況	設定(%)					80.0%		90.0%		100.0%
			公表(%)					80.0%		90.0%		100.0%
			達成状況の把握(%)					80.0%		90.0%		100.0%
②	小学校教員に対する研修実施回数	18回	18回	24回		24回		24回		24回		
③	研修受講者数	350	416	950		950		950		950		

独自	No.	指標内容	2018		2019		2020		2021		2022	
			目標値	達成値(現状)	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
		海外留学・交流派遣人数(高校)	320	320								